

2013 年度第 2 回つくばチャレンジ実行委員会議事メモ

1 日 時 平成 25 年 7 月 6 日 (土) 17:00~18:00

2 場 所 つくば国際会議場 中会議室 202

3 出席者

【実行委員】 別紙 1 参照。

【事務局】(つくば市科学技術振興課) 小川 英男、大久保 剛史、岩橋 利宗
高橋 香、宮本 拓也

4 配布文書

- (1) 議事次第
- (2) つくばチャレンジ 2013 参加者説明会用資料
- (3) つくばチャレンジ 2013 チラシ

5 議事

(1) 挨拶

実行委員会の開催にあたり、油田実行委員長より挨拶があった。

(2) つくばチャレンジ 2013 の参加登録結果

油田実行委員長より、登録〆切後であったが最後に北京大学 (POSS ティーム) の参加申し込みを受付け、参加登録数は 44 ティーム (47 ロボット) となった旨の報告があった。

また、北京大学チームの代表者 (趙先生) は、我国での教員経験を有し日本語は堪能であることが説明された。なお今後、海外チームの参加も受け入れるが、つくばチャレンジにおける共用語は日本語とし、安全に関する注意等の日本語が理解できることを参加の条件とすることとした。

(3) つくばチャレンジのロゴ (デザイン) と紹介チラシについて

油田実行委員長より、ロゴの決定とその使用について説明がなされた。つくばチャレンジのロゴは登録商標等はせず、特にルールは設けなくて、関係者が適宜使用して頂いてよいこととした。

また、つくばチャレンジを紹介するチラシを作成した旨の報告があった。これを用いてつくばチャレンジのアクティビティの広報を努力することとし、今後、実験走行日の探索対象の人や、巡回を行う実行委員は、チラシを持参し、興味のある方々に配布することとした。さらに、このチラシの PDF 版をホームページ上に置き、関係者が各地域で自由に配布できるようにすることとした。

(4) つくばチャレンジ 2013 の日程と「記録走行」について

油田実行委員長より、今後の実験走行や本走行の日程、およびその後の SI 講演会におけるオーガナイズドセッション (12/18-20)、および、シンポジウム (1/6) の計画について説明があった。

また、第 2 回の実験走行以降、夕方に「記録走行」という名称で、希望するチームには持ち時間を決めてロボットを走行させ、その結果を記録に残すこととする旨の説明があり了承された。

(5) 実行委員の役割 (依頼)

油田実行委員長より実行委員の役割として以下の説明があり、協力の依頼がなされた。

- ①実験走行、本走行の前のロボットの安全性チェックへのご協力。
- ②可能な限り探索対象者を引き受けて頂き、ロボットの行動等の情報をフィードバックする。アルバイトの方にも簡単にレポートを書いて頂き、情報のフィードバックが出来るように考えているとの説明があった。
- ③最終の本走行時にロボットに随行して、動作等の確認をする。
今後行われる「記録走行」の出走管理や記録管理をする。また、随行の際には、実行委員もチラシを持って、興味を持たれた方に配布して頂きたい。

(6) 探索対象者について

探索対象者について、以下の通りに議論がなされた。

◆探索対象者は、近づいたロボットの行動等について以下の項目を記録する。

- ・時間
- ・ロボットナンバー
- ・どんなアクションをしたのか
- ・その他気付いたこと

◆探索対象者の服装と帽子の色について

第 1 回実験走行で探索対象者が着用した帽子のうち、ネイビー色はほとんど色彩がなく識別が難しい為、ネイビー色のベストの人もオレンジの帽子を被ることとした。(ベストの色は、今回の説明通り)

◆探索対象者の姿勢について

探索対象者が椅子に座っていると見つけることが難しく立った状態の方がより認識し易いとの意見があった。しかし、探索対象者が立ったままではいるのは楽ではないので、探索対象者に求める姿勢や探索対象者が座る椅子について検討することとした。

◆スタンプカードへの記録方法について

当初はロボットにスタンプカードを持たせる旨アナウンスしていた。しかし、探索対象者が、ロボットが持っているスタンプカードにスタンプするのは難しいとの意見があり、議論された。

その結果、公式には、探索対象者は、自分を発見したと見なされたロボットについて本部へ報告し、それを記録を残すこととする。また、コースを走行中のロボットについて、探索対象者を発見した記録が分かるようにする為、ロボットを操作するオペレータがスタンプカードを持ち、それに探索対象者がスタンプを押すこととした。

◆探索対象者への配慮について

座っている探索対象者から見ると、ロボットが近づいて来た時に恐怖を感じるがあったとの意見が紹介され、議論がなされた。

その結果、まずこの情報を参加チームにもフィードバックして、ロボットの動作の設計に配慮を促すこととした。

(7) その他

追加して、以下の通り議論がなされた。

◆各チームのレポートの記入について

第2回以降の実験走行では、つくばチャレンジ2011の時と同様に、フォームを準備しておいて各参加チームに簡単なレポートを書いて提出してもらい、その情報をホームページ等を用いて共有する。

◆熱中症への配慮について

実験走行は屋外での作業であるので、夏の間は熱中症にならぬように対策・配慮することを、参加チームに注意することとする。

また、探索エリアには日中、日影がない場所もあるので、探索対象の人については、水分補給等とくに配慮をすることとする。